

コラム

アルゼンチン旧国営石油会社の再国有化の行方

戦略研究ユニット

本蔵 満

アルゼンチンは日本から見て地球の裏側にあり、日本から距離的に最も遠い国の1つである。アルゼンチンは音楽ではタンゴのリズムが有名であり、毎年開催されるタンゴ国際コンテストでは日本人も優勝したりしている。またスポーツではサッカーの強豪国として知られており、ドイツの女子ワールドカップサッカーで活躍した沢穂希選手が2011年のFIFA最優秀選手として選ばれたが、同時に男子の部で選ばれたFCバルセロナのメッシ選手はアルゼンチン代表である。このようにアルゼンチンは実際の距離よりも身近に感じられる国かもしれない。一方、エネルギーに目を向けると、アルゼンチンは石油・天然ガスの資源国であるが、日本から遠いため日本への輸入は無きに等しい。このため、エネルギーに関してアルゼンチンの動向が日本で大きな話題になることは少ない。

このようにエネルギーに関しては遠い国であるアルゼンチンであるが、現在、大変なことが起きているので紹介したい。

2012年4月、アルゼンチン大統領はスペインの石油会社 Repsol が保有するアルゼンチンの石油会社 YPF の株式 51%を接収すると発表し、5月に議会で国有化法案が通過した。YPF は 1922年にアルゼンチンの国営石油会社として設立され、現在、同国最大の石油会社である。アルゼンチンでは1990年代に国営会社の民営化が行われ、この一環で YPF も民営化され、1999年に Repsol が YPF 株式の 98%を取得した。その後 Repsol は YPF の株式をアルゼンチンの実業家に一部売却したり、ニューヨークなどで上場したりして直近では約 57%の株式を保有していた。接収はこの Repsol 所有の 57%を狙い撃ちしたものとなった。

アルゼンチンが一旦民営化した国有会社を再国有化する背景には何があったのであろうか。アルゼンチンの過去10年を振り返ってみたい。

アルゼンチンは2001年末に対外債務のデフォルトを行った。この結果通貨ペソが暴落したが、政府は通貨価値の低下によって引き起されるインフレを抑制するために、エネルギー分野では、価格の統制や原油、石油製品、ガス輸出に対する高額な課税を行った。この措置は現在も続いており、安価に据え置かれたエネルギー価格は消費の増加を招いている。一方供給側では、国内向けの販売価格が安く、また高額な課税によって輸出が経済性を持

たないため、アルゼンチン国内で操業している石油会社は投資意欲が減退し、石油・天然ガスの生産が減少した。この結果、アルゼンチンは資源国にもかかわらず、石油製品の輸入が増加し、高値の LNG も輸入しなければならなくなった。これに追い討ちをかけたのが国際市場の石油価格上昇であり、依然として対外的に負債を負っているアルゼンチンにとって貴重な外貨が国外に流出することとなった。こうして、背景はさておき、結果としてこれまで十分な投資を行わず石油、天然ガスの生産を増加させることが出来なかった YPF に業を煮やした政府は、同社の再国有化を決断した訳である。

YPF の国有化にはもう 1 つの理由があると考えられる。シェールガスの存在である。米国地質研究所によると、アルゼンチンには北米、中国に次いで世界第 3 位のシェールガス埋蔵が見込まれており、実際に昨年、YPF はシェールガスを発見している。アルゼンチンの在来型原油、天然ガス資源が減少していく中、シェールガスを発見した YPF は、政府にとって急に魅力的な存在になった可能性がある。

このようなアルゼンチン政府の YPF 再国有化に対する反応は、ヨーロッパ諸国からは非難、南米諸国からは支持、という図式になっている。

南米の国営石油会社の中で成功している例としてブラジルのペトロブラスが挙げられるが、果たして YPF はペトロブラスのようになれるであろうか。新生 YPF の CEO に油田サービス会社シュルンベルジェ出身の 44 歳の技術者を任命したことからすると、アルゼンチン政府は新生 YPF に大きな期待を寄せていることが窺える。

新生 YPF が成功するかどうかは、アルゼンチン政府の石油・ガス政策次第であろう。少なくとも、統制価格を見直すだけでも成功する確率が高まるのではないかと考えられる。

YPF 株式の接收に対する補償額をめぐって、Repsol は国際調停に持ち込むことが予想される。長い争いになるであろうが、新生 YPF の行方とは別に、こちらの議論にも興味注がれる。また、スペイン政府はアルゼンチン産バイオディーゼルの輸入制限措置を発動するなどの報復措置を打ち出しており、政府間の争いの先行きも興味深い。

お問い合わせ : report@tky.ieej.or.jp